

第54回情報交流会の会 実施報告書（HP）

開催日時	2023年2月4日(土) 13:30~17:00
名称・主催	第54回 情報交流会の会・(公社) 日本技術士会 神奈川県支部
開催場所	WEB開催
行事内容	1)日本技術士会本部と神奈川県支部（各委員会）からの報告 2)会員によるCPD講演 3)リモート交流会
参加人員	参加者19名（正会員19名） 内 講師1名

《開催概要》

■開会挨拶(松田支部長)

本日も参加をいただきありがとうございます。講演では木戸講師から海洋開発に関わる話があるようで楽しみにしています。この1月24日には支部創立10周年記念大会が開催され、また、2月1日から3日にはテクニカルショウヨコハマならびに震災対策技術展がそれぞれ開催されました。支部も出展し、多くの方に携わっていただきありがとうございました。今後とも支部活動にお力添えをお願いいたします。

■本部活動報告（小牛田理事）

1月11日開催の理事会の議題を中心に説明がありました。（正会員数 16,304人、令和5年度技術士試験日程、2022年度予算執行状況等）

■支部活動報告

総務委員会、研修委員会ならびに社会委員会から今後の予定等について説明がありました。

■会員によるCPD講演

「特盛！海洋調査の面白さ」

国立研究開発法人海洋研究開発機構 木戸ゆかり氏（応用理学）

講師は大学院修了後、標記機構に入所され主に海洋研究調査に関わる業務に就かれてきました。現在は船舶運用部に所属され、様々な研究開発に関連した調査船の運用計画も策定されているそうです。

冒頭、自己紹介と機構所有の調査船の紹介がありました。学生時代に経験した「ダイナマイトを使った海底地殻構造探査」や調査船の「しんかい6500」ならびに「ちきゅう」等について多くの画像を使われ、興味を湧き立てる解説が続きました。

これまでの業績の中から何点かの取り組み事例の紹介がありました。そのひとつとして、現在進めている大きなプロジェクトの「全世界における海底地形図の作成」があるそうです。これは持続可能な海洋開発を目指す「国連海洋科学の10年」と名付けられている世界的な取組の中の一事業として実行されているそうです。この海底地形図は、実測値データの上では全世界の25%程度の蓄積しかなく課題となっているとのことでした。

また、南海トラフに関わって和歌山県沖での調査では海底の地殻構造について三次元画像処理を行って今後の地震災害対策に活かしていけるように取り組んでいるそうです。

このような調査を行うにあたって必要となる船舶等については有人調査船だけではなく、無人型の調査船「うらしま」の開発・試験運行やウェーブグライダーの活用も始まっているとのことでした。

これらの海底掘削科学の最先端に位置づけられている地球深部探査船「ちきゅう」についてその役割や機能について詳細な紹介がありました。日本周辺の地震・津波観測監視システムの構築や気候変動調査ならびに海底3200mのサンプル採集など、分かり易く解説されていました。また、日本の排他的経済水域を含めた海域にある海底資源（マンガンクラストやメタンハイグレード）の存在調査も進んでいるそうです。

講師ご自身が海上に浮かぶこの「ちきゅう」への乗船のためのヘリコプター搭乗や海難訓練の様子、東日本大震災時に八戸港に停泊していた時の津波に遭遇した体験なども紹介されました。

最後に、「海洋立国日本・海と共に生きる・海に目を向けて」という熱いメッセージとともに今後とも様々な分野の人に「海洋調査の楽しさ」を発信し、また、子どもや学生などの若年層の方にこの分野への誘いを続けていきたいとの話で講演が終わりました。

■リモート交流会

参加会員を2班に分けて2回のブレイクセッションを行って交流や歓談を進めました。

■閉会挨拶

閉会の挨拶があり会の終了が告げられました。（17時00分）

